



# 島はダイナミック！ 新しい景色に出合う旅

オリブの揺れる海岸線、歴史が薫る海辺の公園、瀬戸内海最高峰から眺める水平線。四方を海に囲まれた島の風景は、変化に満ちています。



海風に吹かれて採石の歴史を思う (大坂城残石記念公園)



懐かしい昭和の雰囲気漂う景色 (二十四の瞳映画村)

## 「ここにしかない景色」を守りたい

オリブに囲まれて望む海景色

穏やかな瀬戸内海の風景にずっと親しんで、当たり前のように思っていたが、18歳で県外に出た時、波の荒々しさに驚き、何より「オリブのない海景色」に違和感を覚えたんです。小豆島の風景



には、ここでしか見られない価値があることに気がきました。島の住民として、この景色を守り続け、小豆島の魅力をどんどん広めていきたいですね。



佐伯さん

9月から12月にかけて、島のオリブは収穫期を迎えます。年明けの1月1日からは、園内で採れたオリブを使った、小豆島産100%のオリブオイルの販売がスタート。海風を浴びた島の実りを、ぜひ味わってみてください。

小豆島オリブ公園 ☎0879-82-2200

小豆島オリブ公園

検索

エリア 小豆島

ら港、まちから山へ、そして再び海へ。水が結ぶ豊かな世界を実感できる眺めです(右上写真)。  
山を下ってきた先は草壁港。このまま道なりに南下して、「二十四の瞳映画村」を目指しましょう。映画のオープンセットを活用したテーマパークで、浜には物語の重要な舞台となる「岬の分教場」のセットが建っています。ノスタルジーあふれる海辺の風景に、カメラを構える人の姿が絶えません。  
島を半周し、小豆島ならではの眺めに迎えられる今回のコース。いつもと違う島の表情に、出合いに行ってみませんか。

## 草壁

壁港から程近い高台に建つ、白いギリシャ風車。「小豆島オリブ公園」の緑の丘に立つと、豊かに茂るオリブの木々の向こうに瀬戸内海がキラキラと光ります。まさに小豆島を代表する絶景。今日はここから、島のさまざまな海景色を訪ねて行きましょう。

オリブ公園から西へ向かい、池田港を過ぎて土庄町に入ると、一列に並んだ4つの小さな島が見えてきます。一番手前の弁天島から中余島、小余島、大余島まで、干潮時だけ現れる砂浜でつながっており、「エンジェルロード」の愛称で知られる観光名所。干満はもちろん朝焼けや夕日、夜間のライトアップなど一日の間に刻々と表情を変え、訪れる人の目を楽しませてくれます。  
エンジェルロードのぎわいを離れて、県道26号を北上し島の北側へ。峠を越えると突然視界が開け、真っ青な



エンジェルロード 写真提供：土庄町商工観光課

し先、道の駅「大坂城残石記念公園」で一休み。公園名が刻まれた大きな石柱が迎えてくれます。

残石は残念石とも呼ばれ、大坂城の石垣用に切り出されたものの、使われないまま終わった巨石のこと。江戸時代の大改修の際、当時の小倉藩(後の熊本藩)・細川家が小豆島の石を運んだ記録が残っています。興味がある人は、併設の資料館で詳しく学んでみましょう。資料館の裏手はすぐに海。岸壁には大きな花こう岩がずらりと並び、まるで彫刻のよう。歴史が薫る、一風変わった海景色に出会えました。

海岸線に別れを告げ、今度は一気に島の最高峰・寒霞渓の山頂へ。山頂の展望台に立つと、眼下に瀬戸内海の風景が広がり、天気が良いればはるか讃岐山脈や剣山まで望めることも。海か